

和泉葛城山の昆虫（2013-2014 年度調査）

岩崎 拓（貝塚市立自然遊学館）

はじめに

和泉葛城山の山頂付近の昆虫相を明らかにするため、2008 年に予備的な調査を開始し、2009 年以降は 4 月から 12 月まで毎月 1 回の割合で定期的な調査を行ってきた（岩崎、2014c など）。これまでの調査において、『大阪府レッドリスト 2014』の指定種であるナキイナゴ、ヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミ、オニクワガタ、セダカテントウダマシ、ホソバセセリなどが継続して確認され、カヤコオロギ、セグロイナゴ、ムカシトンボ、アキアカネ、ミヤマアカネ、トラフコメツキ、スミナガシ、エゾヨツメなども散発的に確認されてきた。その他、山地性の種として、エゾツユムシ、エゾハサミムシ、テングアワフキ、トゲカメムシ、ツノアオカメムシ、ミヤマカメムシ、トホシカメムシ、シダクロズメバチなどが確認されてきた。

和泉葛城山の山頂付近には、国の天然記念物に指定されているブナ林に生息する種だけでなく、和歌山県側から続く草原に由来する種や、岸和田市側の二次林に由来する種も生息し、多様な昆虫相の構成する要素となっている。2013-2014 年度も昆虫相全般を対象にした調査を行ったので、ここに報告する。

調査方法

2013 年と 2014 年の 4 月から 12 月にかけて、毎月 1 回、合計 9 回、雨でない日を選んで調査を行った。和泉葛城山の山頂付近（標高 820～858 m：メッシュコード 51354314-15：図 1、2）を約 3 時間かけて歩き、目視や鳴き声等によって種の確認を行った。目視で同定可能な種は記録するか写真撮影に留め、同定が困難な種や自然遊学館に標本のない種等を採集し、当館の所蔵標本とした。今回の調査結果は、速報としてはすでに当館の季刊誌「自然遊学館だより」に報告されている（岩崎、2014a、2015）。



図 1. 山頂付近のブナ林 2013. 5. 8

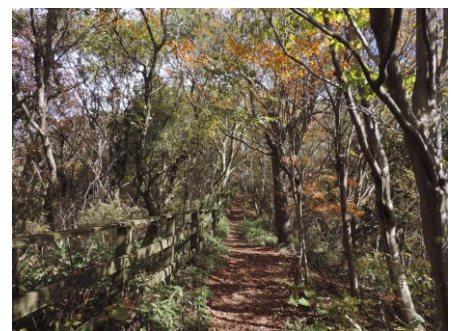


図 2. 山頂付近の登山道 2014. 11. 6

結果および考察

両年の調査で確認された昆虫を、大阪府レッドリストの指定種、貝塚市内での分布が和泉葛城山の山頂付近にほぼ限られる山地性の種、および自然遊学館に標本がなかった種を中心に、それぞれの目ごとに簡単な解説を行った。また、必要に応じて、自然遊学館がこれまでに収集・所蔵してきた貝塚市産昆虫標本のデータとの比較を行った。

バッタ目

大阪府レッドリストの指定種として、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴが和歌山県側から続く草原の北端において2013年の7月2日と8月1日、2014年の7月1日に、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキがブナ林内において2013年8月1日と2014年8月5日に確認された(表1、2、図3)。両種とも2008年の調査開始以来、ほぼ毎年確認されていて、個体群は安定的に保たれていると考えられる(表9参照)。その他、チビクチキウマ(図4)、ヒメクササキリ、エゾツユムシ、およびヒロバネヒナバッタは、貝塚市内におけるこれまでの調査では和泉葛城山の山頂付近に分布がほぼ限られる種であり、それぞれ、ブナ林内、林縁の低茎草地、林縁、および開けた低茎草地において生息が確認されている。貝塚市内での分布が山頂付近に限られる種は、草原性で大阪府側のブナ林やスギ・ヒノキ植林に分布を制限される場合と、ブナ林や高標高の生息場所を好む場合が考えられる。

表1. 和泉葛城山山頂付近において2013年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 9日	5月 8日	6月 6日	7月 2日	8月 1日	9月 10日	10月 10日	11月 5日	12月 3日
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>						△			○	
カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>			○							
	クチキウマ属	<i>Anoplophilus</i> sp.				○						
	ウマオイ属	<i>Hexacentrus</i> sp.							○			
キリギリス科	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>			△	△	△	○	○			
	キリギリス	<i>Gampsocleis buergeri</i>						○	○			
	ヒメギス	<i>Eobiana engelhardti subtropica</i>							○			
	ヒメクササキリ	<i>Ruspolia dubia</i>							△○		○	
ツユムシ科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>					△	○	○			
	エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>							○			
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					○					
コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>							○		○	
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>								○		
ヒバリモドキ科	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofascatus</i>						○	○		○	
	シバズ	<i>Polionemobius mikado</i>							○	○	○	
	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>							○	○	○	
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>						○	○			
	フキバッタ属	<i>Parapodisma</i> sp.			△	△	△					
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>					○	○				
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>						○	○	○		
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>							○	○	○	○
ヒシバッタ科	モリシシバッタ	<i>Tetrix silvicultrix</i>			○		○		○			

表2. 和泉葛城山山頂付近において2014年4月から12月にかけて確認されたバッタ目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 8日	5月 7日	6月 10日	7月 1日	8月 5日	9月 9日	10月 9日	11月 6日	12月 3日
コロギス科	ハネナシコロギス	<i>Nippancistroger testaceus</i>					△		○			
カマドウマ科	マダラカマドウマ	<i>Diestrammena japonica</i>							△			
	ハヤシウマ	<i>Diestrammena itodo</i>								△		
キリギリス科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>								○		
	ヤブキリ	<i>Tettigonia orientalis</i>						○				
	ヒメクササキリ	<i>Ruspolia dubia</i>						△	△	○		
ツユムシ科	アシグロツユムシ	<i>Phaneroptera nigroantennata</i>					△	△○	○			
ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>					○					
	ヒメツユムシ	<i>Leptoteraura albicornis</i>							○	○		
コオロギ科	モリオカメコオロギ	<i>Loxoblemmus sylvestris</i>								○		
マツムシ科	カンタン	<i>Oecanthus longicauda</i>								○		
ヒバリモドキ科	マダラスズ	<i>Dianemobius nigrofascatus</i>							○	○	○	
	クサヒバリ	<i>Svistella bifasciata</i>							○	○		
バッタ科	ヤマトフキバッタ	<i>Parapodisma yamato</i>			△	△	△○	○	○	○	○	
	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>					○					
	ツマグロバッタ	<i>Stethophyma magister</i>						○				
	ヒロバネヒナバッタ	<i>Stenobothrus fumatus</i>						○		○	○	○
ヒシバッタ科	ヒシバッタ属	<i>Tetrix</i> sp.						△				

ハサミムシ目

エゾハサミムシが2013年8月1日、2014年の6月10日(幼虫での確認)と8月5日(図5)に、コブハサミムシが2013年7月2日に確認された。コブハサミムシは、自然遊学館が所蔵する貝塚市産標本の記録では、これまで標高200m付近より高い地点で広く確認されているのに対して、エゾハサミムシは山頂付近に限られている。



図3. ヒトコブササキリモドキ
2014. 8. 5



図4. チビクチキウマ
2014. 10. 9



図5. エゾハサミムシ
2014. 8. 5

カメムシ目

セミ科は、2013年に8種、2014年に6種が確認され(表3、4)、このうち、エゾゼミ(図6)とハルゼミは大阪府レッドリストにおいて準絶滅危惧に指定されている。両種のセミとも、2008年以降、毎年確認されている(表9参照)。貝塚市で確認されているセミ科の中で、2008年以降の山頂付近における調査で確認されていないものとしてクマゼミがあげられるが、自然遊学館には、

表3. 和泉葛城山山頂付近において2013年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「○」印は成虫での確認、「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>		9日	8日	6日	2日	8月1日	9月10日	10月10日	11月5日	12月3日
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						鳴				
ミンミンゼミ	<i>Oncotympana maculaticollis</i>							鳴			
ニイニイゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>						鳴				
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							鳴	鳴		
ヒグラシ	<i>Tanna japonensis</i>						鳴				
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>				鳴	鳴					
チツチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>							鳴			

表4. 和泉葛城山山頂付近において2014年4月から12月にかけて確認されたセミ科

「鳴」印は鳴き声での確認を、それぞれ示している。

種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>		8日	7日	10日	1日	5日	9日	9日	6日	3日
アブラゼミ	<i>Graptopsaltria nigrofuscata</i>						鳴				
ニイニイゼミ	<i>Platyleura kaempferi</i>						鳴				
ツクツクボウシ	<i>Meimuna opalifera</i>							鳴			
ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>			鳴	鳴	鳴	鳴				
チツチゼミ	<i>Cicadetta radiator</i>							鳴			

1995年9月2日に中谷憲一氏により当地で採集されたクマゼミのオスの羽化殻が1個体所蔵されている。その他のヨコバイ亜目に関しては、大阪府レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類に指定されているテングオオヨコバイが2014年7月1日に、山地性のテングアワフキが2013年7月2日に確認されている（図7、8）。



図6. エゾゼミ
2013. 8. 1



図7. テングオオヨコバイ
2014. 7. 1



図8. テングアワフキ
2013. 7. 2

2013年と2014年に確認されたツノカメムシ科、カメムシ科、およびクヌギカメムシ科のリストを、それぞれ表5と表6に示した。カメムシ亜目では、山地性のカメムシ科として注目しているツノアオカメムシ、エゾアオカメムシ（図9）、トゲカメムシ、トホシカメムシが確認された（表5、6）。2014年のツノカメムシ科とカメムシ科の種数が2013年より多い理由は不明である。同じく山地性として注目しているオオトビサシガメ、ミヤマカメムシ、およびヨツボシカメムシは、今回の調査では確認されなかった（表9参照）。



図9. エゾアオカメムシ
2014. 10. 9

その他、ヒメハサミツノカメムシ、ヒメツノカメムシ、ナシカメムシなども、自然遊学館の所蔵標本の記録では、貝塚市内において和泉葛城山の山頂付近でしか確認されていないが、他の地点で確認されていないだけで、山地性というよりは、寄主植物との関係でそのような分布になっている可能性も考えられる。

表5. 和泉葛城山山頂付近において2013年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月 9日	5月 8日	6月 6日	7月 2日	8月 1日	9月 10日	10月 10日	11月 5日	12月 3日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>										○
	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forficula</i>							○			
カメムシ科	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>				○			△	△	○	
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>							○			
	クチフトカメムシ	<i>Picromerus lewisi</i>						○				
クヌギカメムシ科	ナシカメムシ	<i>Urochela luteovaria</i>					○	○				
	ヘラクヌギカメムシ	<i>Urostylis annulicornis</i>										○

表6. 和泉葛城山山頂付近において2014年4月から12月にかけて確認された主なカメムシ亜目

「○」印は成虫での確認、「△」印は幼虫での確認を、それぞれ示している。

科	種	学名	調査日	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
				8日	7日	10日	1日	5日	9日	9日	6日	3日
ツノカメムシ科	セアカツノカメムシ	<i>Acanthosoma denticaudum</i>			○		○	○	○	○	○	
	ヒメハサミツノカメムシ	<i>Acanthosoma forficula</i>						○			○	
	エサキモンキツノカメムシ	<i>Sastragala esakii</i>					○	○				
カメムシ科	ヒメツノカメムシ	<i>Elasmucha putoni</i>									○	
	エビイロカメムシ	<i>Gonopsis affinis</i>							△			
	ツマジロカメムシ	<i>Menida violacea</i>									○	
	チャバネアオカメムシ	<i>Plautia crossota stali</i>		○		○	○	○	○	○		
	トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>								○		
	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>					○					
	エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>								○		
	トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>								○	○	
	クサギカメムシ	<i>Halyomorpha picus</i>					△	○	△	△○	○	○
	クヌギカメムシ科	ナシカメムシ	<i>Urochela luteovariva</i>						○		○	
ヘラクヌギカメムシ		<i>Urostylis annulicornis</i>										○

コウチュウ目

大阪府レッドリストの指定種では、絶滅危惧Ⅱ類のムネアカセンチコガネを2013年8月1日に採集した(図10)。獣糞や死体上ではなく、死体を拾得したものである。準絶滅危惧では、セダカテントウダマシを2013年4月9日と6月6日に(図11)、セダカコブヤハズカミキリを2013年6月6日に確認した。ムネアカセンチコガネとセダカコブヤハズカミキリは2008年の調査開始以来、初めての確認となった。両種とも主に地面近くで活動する種であり、葉上や樹幹の目視による確認が主な調査方法であったので、これまで見過ごしていた可能性がある。それに対して、セダカテントウダマシはこれまでに、樹幹にいるところを確認したこともあるし、今回のように登山道の木柵上で確認されたこともあった。

注目種としては、2013年の8月1日と9月10日に確認されたアカアシクワガタ、自然遊学館に標本がなかった種としては、ダンダラカッコウムシ(2013年4月9日、図12)、メダカチビカワゴミムシ(2013年7月2日)、カタモンキノコハネカクシ(2014年4月8日)、カバイロコメツキ(2014年6月10日)、セコブナガキマワリ(2014年8月5日)などがあげられる。



図10. ムネアカセンチコガネ
2013. 8. 1

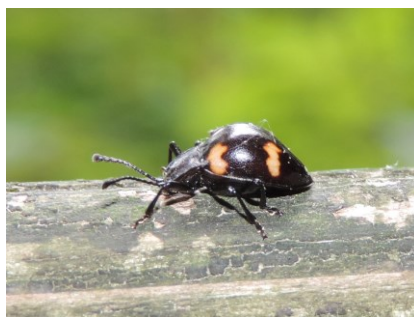


図11. セダカテントウダマシ
2013. 6. 6



図12. ダンダラカッコウムシ
2013. 4. 9

チョウ目

2013年に確認されたチョウ類は26種、2014年は25種であった(表7、8)。大阪府レッドリストの指定種としては、オオムラサキ(図13)が2013年に、ミスジチョウが2014年に、ホソバセセリ

が2013年と2014年に確認された。いずれもランクは準絶滅危惧である。

ガ類では、自然遊学館にこれまで標本がなかった種として、2013年の5月8日にオオクロオビナミシヤク、7月2日にアシブサトガリホソガ、8月1日にハイイロオオエダシヤク、2014年の7月1日にナミスジキヒメハマキ(図14)、9月9日にヒロオビエダシヤク(図15)が確認されている。

表7. 和泉葛城山山頂付近において2013年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月 9日	5月 8日	6月 6日	7月 2日	8月 1日	9月 10日	10月 10日	11月 5日	12月 3日	
アゲハチョウ科	モンキアゲハ	<i>Papilio helenus nicconicolens</i>						○					
	キアゲハ	<i>Papilio machaon</i>							○				
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>			○	○	○						
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>			○	○	○						
	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>			○								
タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>				○							
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>						○					
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>			○		○						
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>							○				
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>				○							
	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>				○							
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>								○			
	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>								○			
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>		○		○							
	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>						○					
シジミチョウ科	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>								○			
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>			○	○					○		
	ルリシジミ	<i>Celastrina argiolus ladorides</i>					○				○		
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>							○	○			
	ツバメシジミ	<i>Everes argiades hellotia</i>					○						
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>								○			
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>					○	○	○				
	セセリチョウ科	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>						○				
		イチモンジセセリ	<i>Parnara guttata guttata</i>							○	○		
		チャバネセセリ	<i>Pelopidas mathias oberthueri</i>								○		
ダイミョウセセリ		<i>Daimio tethys</i>			○	○	○	○					

6月6日のテングチョウは、山頂のトイレの周辺で30個体以上が群飛

表8. 和泉葛城山山頂付近において2014年4月から12月にかけて確認されたチョウ類

科	種	学名	調査日	4月 8日	5月 7日	6月 10日	7月 1日	8月 5日	9月 9日	10月 9日	11月 6日	12月 3日	
シロチョウ科	スジグロシロチョウ	<i>Pieris melete</i>				○	○	○	○				
	キタキチョウ	<i>Eurema mandarina</i>						○	○	○	○		
	ツマキチョウ	<i>Anthocharis scolymus</i>			○								
	モンキチョウ	<i>Colias erate poliographus</i>			○	○							
タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	<i>Argynnis paphia</i>					○	○					
	ツマグロヒョウモン	<i>Argyreus hyperbius hyperbius</i>						○					
	クロヒカゲ	<i>Lethe diana diana</i>			○	○			○				
	ヒカゲチョウ	<i>Lethe sicelis</i>								○			
	ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>			○	○							
	コムスジ	<i>Neptis sappho intermedia</i>				○	○						
	アサマイチモンジ	<i>Ladoga glorifica</i>						○					
	サカハチチョウ	<i>Araschnia burejana strigosa</i>								○			
	アカタテハ	<i>Vanessa indica</i>					○						
	カタテハ	<i>Polygonia c-aureum c-aureum</i>									○	○	
シジミチョウ科	ルリタテハ	<i>Kaniska canace nojaponicum</i>			○				○				
	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>		○									
	アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>			○								
	テングチョウ	<i>Libythea celtis celtoides</i>		○	○	○			○				
	ヤマトシジミ	<i>Zizeeria maha argia</i>									○		
	ウラナシジミ	<i>Lampides boeticus</i>								○			
	コツバメ	<i>Callophrys ferrea</i>			○								
	ベニシジミ	<i>Lycaena phlaeas daimio</i>						○					
	セセリチョウ科	アカシジミ	<i>Japonica lutea lutea</i>			○							
		ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>						○				
ダイミョウセセリ		<i>Daimio tethys</i>					○						



図 13. オオムラサキ
2013. 8. 1



図 14. ナミスジキヒメハマキ
2014. 7. 1



図 15. ヒロオビエダシャク
2014. 9. 9

ハチ目

注目種として、山地性のシダクロスズメバチが 2013 年 6 月 6 日と 2014 年 5 月 7 日に確認された。また、2013 年 8 月 1 日に山地性のキオビホオナガスズメバチが確認され（図 16）、注目種に加えた（表 9）。その他、これまで自然遊学館に標本がなかった種として、2014 年 9 月 9 日にジムグリの死体にたかっているクロクサアリが採集された。自然遊学館の記録では、貝塚市産アリ科 55 種目となった（岩崎、2014b）。



図 16. キオビホオナガスズメバチ
2013. 8. 1

大阪府レッドリスト種と注目種

2008 年の調査開始以降、今回の調査で初めて確認された大阪府レッドリスト種は、絶滅危惧Ⅱ類のムネアカセンチュウガネと、準絶滅危惧のセダカコブヤハズカミキリ、オオムラサキ、ミスジチョウの 4 種である（表 9）。これらの種に関しても、他の文献を当たれば、過去に記録があった可能性がある（ミスジチョウは自然遊学館に山頂付近で採集された標本が収蔵されている）。

表 9. 和泉葛城山山頂付近において 2008 年から 2014 年にかけて行われた調査で確認された大阪府レッドリスト種

ランク	目	科	種	学名	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
絶滅危惧Ⅰ類	バッタ目	マツムシ科	カヤコオロギ	<i>Euscyrthus japonicus</i>	○						
絶滅危惧Ⅱ類	バッタ目	バッタ科	ナキイナゴ	<i>Mongolotettix japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○
			セグロイナゴ	<i>Shirakiacris shirakii</i>				○			
	カメムシ目	ヨコバイ科	テングオオヨコバイ	<i>Tengirhinus tengu</i>	○		○				○
	コウチュウ目	コガネムシ科	ムネアカセンチュウガネ	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>						○	
準絶滅危惧	トンボ目	アオイトトンボ科	オツネトンボ	<i>Sympetrum paedisca</i>				○	○		
			ムカシトンボ	<i>Epiophlebia superstes</i>			○				
		トンボ科	ミヤマアカネ	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>				○			
			アキアカネ	<i>Sympetrum frequens</i>				○			
バッタ目	ササキリモドキ科	ヒトコブササキリモドキ	<i>Tettigoniopsis kongozanensis</i>		○	○	○	○	○	○	
カメムシ目	セミ科	ハルゼミ	<i>Terpnosia vacua</i>	○	○	○	○	○	○	○	
			エゾゼミ	<i>Tibicen japonicus</i>	○	○	○	○	○	○	○
	コウチュウ目	クワガタムシ科	オニクワガタ	<i>Prismognathus angularis angularis</i>	○			○			
		テントウダマシ科	セダカテントウダマシ	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>		○		○		○	
		カミキリムシ科	セダカコブヤハズカミキリ	<i>Parechthistatus gibber gibber</i>						○	
	チョウ目	タテハチョウ科	オオムラサキ	<i>Sasakia charonda charonda</i>						○	
			スミナガシ	<i>Dichorragia nesimachus nesiotus</i>					○		
			ミスジチョウ	<i>Neptis philyra excellens</i>							○
		セセリチョウ科	ホソバセセリ	<i>Isoteinon lamprospilus lamprospilus</i>				○	○	○	○
		ヤママユガ科	エゾヨツメ	<i>Agla tau microtau</i>					○		
情報不足	コウチュウ目	コムツキムシ科	トラフコムツキ	<i>Selatossomus onerosus</i>				○			
			ルリツヤハダコムツキ	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>					○		
	ハチ目	ミツバチ科	クロマルハナバチ	<i>Bombus ignitus</i>					○		

それに対して、ほぼ毎年確認されているものとしては、絶滅危惧Ⅱ類のナキイナゴ、準絶滅危惧のヒトコブササキリモドキ、ハルゼミ、エゾゼミがあげられる。ホソバセセリは2011年以降、毎年確認されている。4月から12月まで毎月1回の調査で何がしかの傾向を言えるとすれば、これくらいかもしれない。

山地性や、貝塚市内でこれまでの記録が和泉葛城山の山頂付近に限られるという種、あるいは2014年の大阪府レッドリストの改訂においてランク外とされた種などを注目種とし、それらの確認年を表10に示した。今回の調査で新たに加えたものは、アカアシクワガタとキオビホオナガスズメバチの2種である。また、ほぼ毎年確認されている種としては、ヒメクサキリ、ニホントビナナフシ、トゲカメムシ、アサギマダラがあげられる。ここ数年は毎年確認されているものとしてチビクチキウマとヒオドシチョウがあげられるが、これは両種とも確認できる時期と場所がピンポイントで分かったためである。このように、発見確率も年ごとに変化し、月1回という頻度も十分とは言えないので、この表が個体数の増減や生息の有無を正確に反映しているとは考えにくい。

表10. 和泉葛城山山頂付近において2008年から2014年にかけて行われた調査で確認された注目種

目	科	種	学名	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
バッタ目	カマドウマ科	チビクチキウマ	<i>Anoplophilus minor</i>					○	○	○
		ヒメクサキリ	<i>Ruspolia dubia</i>	○	○	○	○		○	○
	ツユムシ科	エゾツユムシ	<i>Kuwayamaea sapporensis</i>				○		○	
ナナフシ目	ナナフシ科	ニホントビナナフシ	<i>Micadina phluctainoides</i>		○		○	○	○	
ハサミムシ目	クギヌキハサミムシ科	エゾハサミムシ	<i>Eparchus yezoensis</i>					○	○	○
カメムシ目	アワフキムシ科	テングアワフキ	<i>Philagra albinotata</i>	○					○	○
		オオトビサシガメ	<i>Isyndus obscurus</i>	○	○		○	○		
カメムシ目	カメムシ科	ツノアオカメムシ	<i>Pentatoma japonica</i>	○	○	○				○
		エゾアオカメムシ	<i>Palomena angulosa</i>			○	○			○
		トゲカメムシ	<i>Carbula humerigera</i>	○	○		○	○	○	○
		ミヤマカメムシ	<i>Hermolaus amurensis</i>		○			○		
		トホシカメムシ	<i>Lelia decempunctata</i>	○	○			○		○
		ヨツボシカメムシ	<i>Homalagonia obtusa</i>			○				
		アアカシクワガタ	<i>Nipponodorcus rubrofemoratus</i>							○
コウチュウ目	クワガタムシ科	ミヤマクワガタ	<i>Lucanus maculifemoratus</i>	○	○			○		
		ハスジゾウムシ	<i>Cleonus japonicus japonicus</i>	○						
チョウ目	タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	<i>Nymphalis xanthomelas japonica</i>				○	○	○	○
		アサギマダラ	<i>Parantica sita nipponica</i>	○	○	○	○	○	○	○
		ヒメヤママユ	<i>Caligula jonasii jonasii</i>				○			
ハチ目	ヤマユガ科	シダクロスズメバチ	<i>Vespula shidai</i>	○	○				○	○
		キオビホオナガスズメバチ	<i>Dolichovespula media</i>						○	
		オオマルハナバチ	<i>Bombus hypocrita hypocrita</i>			○				

平地にもいる普通種

和歌山県側から登ると分かるように里山の延長として山頂まで景観が連続している所もあり、シオカラトンボ、オオカマキリ、シマサシガメ、ナミテントウ、ナナホシテントウ、ウシアブ、アシブトハナアブ、トビイロケアリなどの平地や里山でも見られる普通種もよく観察された。

本調査では、大阪府レッドリスト種、山地性などの注目種、あるいは自然遊学館に標本がなかった種を中心に記録したので、普通種を含む多くの種に関する情報を省略することになってしまった。

謝辞

カワゲラ目標本の同定をさせていただいた森本静子氏、コウチュウ目の同定をチェックしていただいた森康貴氏および澤田義弘氏に謝意を表す。

引用文献・参考文献

- 岩崎 拓 (2010) 和泉葛城山の昆虫 (2008 年度調査) . 貝塚の自然 第 12 号 : 41-45.
岩崎 拓 (2011) 和泉葛城山の昆虫 (2009 年度調査) . 貝塚の自然 第 13 号 : 88-94.
岩崎 拓 (2012) 和泉葛城山の昆虫 (2010 年度調査) . 貝塚の自然 第 14 号 : 53-58.
岩崎 拓 (2013) 和泉葛城山の昆虫 (2011 年度調査) . 貝塚の自然 第 15 号 : 41-50.
岩崎 拓 (2014a) 和泉葛城山昆虫調査 2013. 自然遊学館だより No. 70 : 14-17.
岩崎 拓 (2014b) アリ科 2 種の観察例. 自然遊学館だより No. 73 : 12-13.
岩崎 拓 (2014c) 和泉葛城山の昆虫 (2012 年度調査) . 貝塚の自然 第 16 号 : 29-38.
岩崎 拓 (2015) 和泉葛城山昆虫調査 2014. 自然遊学館だより No. 75 : 15-17.
大阪府 (2014) 「大阪府レッドリスト 2014」, 48pp.

誤同定について

年次報告書「貝塚の自然」で発表してきたリストの中で、誤同定が判明した時は、自然遊学館ホームページの報告書ページ (<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/nennji/seigohyou.html>) において公表している。和泉葛城山山頂付近における昆虫調査を 2008 年に開始して以降、これまでに判明した誤同定は以下の通りである。

2009 年 5 月 19 日

(誤) ナカジロサビカミキリ *Pterolophia jugosa jugosa* (正) クワサビカミキリ *Mesosella simiola*

(誤) ウンモンチュウレンジ *Arge jonaxi* (正) ツクバネチュウレンジ *Arge suzukii*

2009 年 8 月 13 日、10 月 13 日、2010 年 5 月 18 日～11 月 5 日、2011 年 7 月 6 日～10 月 18 日、2012 年 5 月 10 日～10 月 6 日

(誤) オオシワアリ *Tetramorium bicarinatum* (正) シワクシケアリ *Myrmica kotokui*

2010 年 4 月 17 日

(誤) キリシマシリアゲ *Panorpa kirisimaensis* (正) キシタトゲシリアゲ *Panorpa fulvicaudaria*

2010 年 6 月 17 日

(誤) アカハラクロコメツキ *Ampedus hypogastricus hypogastricus*

(正) コガタクシコメツキ *Melanotus erythropygus*

付図

毎月の調査後すぐに、自然遊学館の玄関横の掲示板に、調査結果を速報として貼り出した。それらを付図として以下に掲載した。

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年4月）

2013年4月9日 天候：晴れ 調査者1名

正午の気温が9℃台で、風は肌寒く、ブナもまだ少ししか芽吹いていません。その芽の写真を撮ると、寄生植物のヤドリギの種が枝に付いていました。ウグイスやシジュウカラの声は聞こえますが、虫の姿はほとんど見えません。樹幹のすき間や落葉の中にひそんでいるのでしょう。



ブナの芽

チョウ目（チョウ類1種）

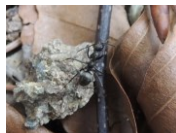
毎年、4月の調査で最初に確認されるのは、決まってヒオドシチョウです。成虫で冬を越していたので、翅はボロボロです。近づいて撮影していると、金属的な「固い」音を響かせながら、飛んで行ってしまいました。もしかしたら、敵を驚かせる「威嚇音」なのかもしれません。



ヒオドシチョウ

ハチ目

写真はハヤシクロヤマアリで、公園や野原でよく見かけるクロヤマアリと似ていますが、腹部の立毛の生え方が違います。もう1種見たアリは、ヒゲナガアリで、普通種のトビイロケアリとは、触角の長さが違います。微妙な違いですが、アリは案外、しっかり同定ができる仲間です。



ハヤシクロヤマアリ

コウチュウ目

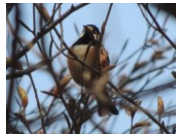
セダカテントウダマシ（大阪府RDB：準絶滅危惧）を4月に見たのは初めてでした。ヘニヘリテントウは自然遊学館の記録で2個体目となりました。写真は、これまで標本がなかったダングラカッコウムシです（体長6mm）。標本があったクロダングラカッコウムシよりカラフルです。



ダングラカッコウムシ

その他

昆虫が少なかったため、鳥の写真を紹介します。ブナ林の中にいたヤマガラ（右の写真）と地面で餌をついばんでいたホオジロの2種を撮影することができました。来月には葉がもっと茂って、写真が撮りにくくなると思います。



「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年5月）

2013年5月12日 天候：晴れ 調査者1名

ブナの新緑が色鮮やかですが、日陰に入ると、まだまだ肌寒さが残る山頂でした。チョウやトンボなどの目立つ飛び方をする昆虫を見ません。小さな虫は活動していて種数は出るのですが、撮影に適した虫が少ないのが残念です。



チョウ目（チョウ類0種・ガ類3種）

チョウ類は、昨年5月の調査日は15℃で1種、今年の5月は11℃で0種という結果となりました。山頂のチョウのシーズンは6月からなのでしょう。ガ類では、写真のモミジツマキリエダシャクのほか、ウスベニヒゲナガとウスキヒゲナガというヒゲナガガ科の2種が確認されました。



モミジツマキリエダシャク

ハチ目

ニホンミツバチがタンポボに来ていました。タンポボは在来種ではなく、外来種のセイヨウタンポボでした。セイヨウミツバチと正確に区別するためには、顕微鏡で後翅をしっかりと見る必要があります。その他、クロオオアリやハヤシクロヤマアリなど5種のアリを確認しました。



ニホンミツバチ

シリアゲムシ目・コウチュウ目

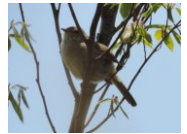
シリアゲムシ科の一種の写真を撮影しました。標本にしても同定が難しいのに、写真だけでは同定できません。コウチュウ目では、クロナガオサムシがこれまで自然遊学館に標本がなかった種です。山頂では、オオクロナガオサムシという近縁種と共存しているようです。



シリアゲムシ科の一種

その他

撮影できるサイズの昆虫が少なかったため、ウグイスの写真を紹介します。この時は動画も撮影することができました。「ホーホケキョ」と鳴き声を出す時に全身を使っていることが分かりました。メスを得るために必死で鳴いているのです。



ウグイス

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年6月）

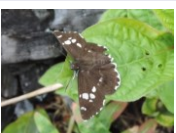
2013年6月6日 天候：くもり 調査者1名

ブナの葉の緑色が濃くなりました。下界は暑くなりましたが、ブナ林の中を吹く風は涼しく心地良いものでした。昆虫の種数は先月よりもかなり増え、ようやく速報に掲載する写真に困ることがなくなりました。



チョウ目（チョウ類7種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、モンキチョウ、ヒオドシチョウ、クロヒカゲ、テングチョウ、ダイミョウセセリの7種を確認しました。昨年の6月と同じく、テングチョウが30匹ほど群れていました。ガ類では、オオスゲドクガを採集しました。



ダイミョウセセリ

ハチ目

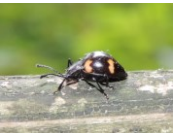
林床のミヤコザサの上をシダクロスズメバチが飛んでいました。近縁のクロスズメバチより標高が高い場所に生息します。スズメバチと言いつつ、アシナガバチ程度の大きさです。8種を確認したアリ類の中では、アスマオオアリが久々に確認できた種です。



シダクロスズメバチ

コウチュウ目

先月から種数が一気に増えました。暫定値ながら18種でした。写真は大阪府RLで準絶滅危惧に指定されているセダカテントウダマシです。山頂・山麓でほぼ毎年確認できています。ヒメコバヤハスカミキリをブナの立ち枯れ木の幹で確認しましたが、写真の出来がダメでした。



セダカテントウダマシ

その他

チビクチキウマの雌雄の写真を撮ることができました。産卵管のある♀でしか近縁種と区別できないので、なかなか種の判明ができませんでしたが、よくいる場所が分かったので、確認が容易になりました。その他、モリヒシバツタ、ヤブキリ幼虫、フキバッタ属の一種を確認しました。



チビクチキウマ（♀）

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年7月）

2013年7月2日 天候：晴れ・くもり 調査者1名
植物全体から見れば花の咲いている種は少ないですが、写真のホタルブクロがたくさん咲いているのが目立ちました。その他、木ではリョウブとウツギ、草ではオカトラノオとウツボグサなどが花を咲かせていました。



チョウ目（チョウ類9種）
チョウ類は、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、コムスジ、アサマイチモンジ、ミドリヒョウモン、テングチョウ、ベニシジミ、ツバメシジミ、ダイミョウセセリの9種を確認しました。ガ類では、写真のアシブサトガリホソガ（カザリバガ科）が自然遊学館に標本がなかった種です。



バッタ目など
バッタ目は、ナキイナゴ、ヤブキリ幼虫、フキバッタ類幼虫、クチキワマ属の一種を確認しました。ナナフシ目ではエダナナフシ幼虫、ハサミムシ目では、写真のコバサミムシを確認しました。コバサミムシはヒメジョオンの花粉を摂食中でした。



コウチュウ目
先月に引き続き20種程度と、種数は多かったのですが、ほとんど山頂ではお馴染みの種でした（未同定のもが少々あります）。写真はハイイロハネカクシです。自然遊学館に標本が少ないものとしては、ヨツボシゴミムシダマシとヒトオビアラゲカミキリが確認されました。



カメムシ目
セミはまだハルゼミだけです。鳴き声はすれども姿を見つけないのは困難です。カメムシ目も、お馴染みの種ばかりでした。写真は口吻の先が尖っていることから命名されたテングアワフキです。テングチョウもそうですが、名前に「テング」が付く虫は、日本に25種ほどいます。



「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年8月）

2013年8月1日 天候：くもり 調査者1名
下界より5℃ほど気温が低いものの、山頂でも蒸し暑く、こういう時は昆虫が多いものです。植物の花はあまり目立ちませんが、リョウブ、イタドリ、ゲンショウコなどの花が咲いていました。写真はカワラナデシコの花です。



チョウ目（チョウ類10種）
チョウ類は、モンキアゲハ、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、クロヒカゲ、オオムラサキ、ツマグロヒョウモン、ベニシジミ、ルリシジミ、ホソバセセリ、ダイミョウセセリの10種を確認しました。ホソバセセリはまだ遊学館に1個体しか標本がなかったため、採集しました。



バッタ目など
バッタ目は、ヤブキリ、ヒトコブササキリモドキ、ナキイナゴ、ヤマトフキバッタ、ツマグロバッタ、モリヒシバッタなどを確認しました。ナナフシ目ではニホントビナナフシ幼虫、ハサミムシ目では、写真のエソハサミムシを確認しました。尾のハサミが長いのが特徴です。



コウチュウ目
ヒットは写真のアカアシクワガタです。ブナの倒木にちょこんと止まっています。脚の腿節だけでなく、胸の腹板も赤色です。遊学館の標本では1995年以降の記録となりました。その他、ムネアカセンチコガネは初標本、ホソカッコウムシは1993年以降の記録でした。



カメムシ目
セミの鳴き声はエソゼミ、ニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシの4種でした。姿の見たのはエソゼミで、かなり弱っている個体が、木の幹でなく、スキの葉にとまっています。ナシカメムシやクチフトカメムシは、自然遊学館の記録では、山頂でしか確認されていない種です。



「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年9月）

2013年9月10日 天候：くもり・晴れ 調査者1名
イタドリやポタンツルの花が目立ちます。それらの花にはハナアブやハナハチの仲間が集まっています。ヨシノアザミはまだつぼみがほとんどです。スキは穂を出し、景色は秋のようですが、日差しはまだまだ厳しいです。



チョウ目（チョウ類6種）
チョウ類は、キアゲハ、ヒカゲチョウ、ベニシジミ、ヤマトシジミ、ダイミョウセセリ、イチモンジセセリの6種を確認しました。ガ類では、ヒメクロイラガの幼虫の写真を撮りましたが、採集して帰らず、自然遊学館に戻ってから、標本がない種だと気付きました。



バッタ目
バッタ目は13種を確認しました。昨年、確認できなかったヒメクサキリは、幼虫、オス成虫、メス成虫を確認できました。写真のエソツユムシも2年ぶりの確認となりました。よく見かけたのは、アシグロツユムシ、ヤマトフキバッタ、ヒロハネヒナバッタです。



コウチュウ目
先月と同じブナの倒木で、アカアシクワガタを採集しました。クヌギの樹液には、わずかにコクワガタだけがいました。ポタンツルには、キバラヒメハムシが来ていました。コウチュウ目は8種しか確認できず、他のグループよりも早くシーズンが終わろうとしているようです。



カメムシ目
セミの鳴き声はほとんどがツクツクボウシで、その他、エソゼミ、ミンミンゼミ、チツゼミを含めて4種でした。エソゼミとミンミンゼミは1個体だけが鳴いていました。その他、トゲカメムシやツマジロカメムシといった山地性のカメムシも確認できました。



付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年10月）

2013年10月10日 天候：晴れ・くもり 調査者1名
山頂の正午で22℃もあり、秋らしくありません。ブナ林の紅葉はまだまだ先のようです。ヨシノアザミにチョウやハナアブがたくさん来ていました。ブナの倒木にツキヨタケが生えていて、ふと見るとヒキガエルもいました。



チョウ目（チョウ類7種）

チョウ類は、アカタテハ、ルリタテハ、アサギマダラ、ウラナミシジミ、ヤマトシジミ、チャバネセセリ、イチモンジセセリの7種を確認しました。アサギマダラは50匹ほど見ました。飛ぶ姿はとても優雅です。写真のクロミスジシロエダシャクはエゴノキが食樹のようです。



クロミスジシロエダシャク

バッタ目 7種

日向ではヒロバナヒナバッタの鳴き声がよく聞こえます。鳴き声といっても、バッタなので、前翅と後脚をこすり合わせて発音しています。クサヒバリとカンタンは、数が少なくなりました。その他、ツマシロバッタ、シバズ、アシシロツムムシ、モリヒシバッタを確認しました。



ヒロバナヒナバッタ

ハエ目 11種

ハナアブ類が6種確認できました。写真のヘリヒラアブは、遊学館に標本がない種ですが、撮影後に逃げられてしまいました。他の5種は、ホシヒラアブ、オオハナアブ、シマハナアブ、ナミハナアブ、クロヒラアブの一種、といった普通種でした。



ヘリヒラアブ

カメムシ目 9種

エゾゼミとツクツクボウシが1個体ずつ鳴いていました。ヘビイチゴの葉裏に付いていたイチゴハトゲアブラムシは、これまで自然遊学館に標本がない種でした。その他、ミヤマアワフキ、ヒメクモヘリカメムシ、ツマシロカメムシ（幼虫）といった山頂の常連を確認しました。



イチゴハトゲアブラムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年11月）

2013年11月5日 天候：晴れ 調査者1名
先月から気温は10℃近く下がり、秋らしくなりました。でも、紅葉は一步も二歩も手前という感じです。昆虫は先月よりかなり減りました。ブナの倒木にはエノキタケやニガクリタケ、立ち枯れ木にはツキヨタケが生えていました。



チョウ目（チョウ類2種）

吸蜜できる花も少なくなりました。ヨメナが少し、ヨシノアザミがほとんどしぼんで残り少し程度です。チョウ類の姿もほとんど見かけず、テングチョウとルリシジミの2種だけを確認しました。カ類は、ホシホウジャクの死体だけを確認しました。



テングチョウ

バッタ目 7種

先月は盛んに鳴いていたヒロバナヒナバッタやクサヒバリの鳴き声もかなり減りました。モリオカメコオロギ、シバズ、マダラスズも少しだけ弱々しく鳴いていました。姿を見たのは、ハネナシコロギスとヒメクササキリの2種だけでした。



ハネナシコロギス

コウチュウ目 4種

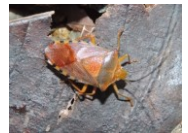
ブナの立ち枯れ木に生えているツキヨタケには、キロセマルケシキスイとオオキハハネカクシが来ていました。キロセマルケシキスイの方がかなり多く、山頂では11月の定番の光景です。ほか、コアリガタハネカクシとナミテントウを確認しました。



キロセマルケシキスイ

カメムシ目 7種

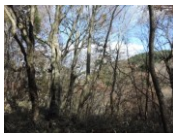
ゼミはさすがに鳴いていません。馴染みのある種だけが6種確認されました。セアカツノカメムシ、ツマシロカメムシ、ケブカカスミカメ、ミヤマアワフキ、などです。冬が近づくと、成虫越冬する種が多いカメムシ目の確認種数の割合が高くなります。



セアカツノカメムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2013年12月）

2013年12月3日 天候：晴れ 調査者1名
カエデ類の紅葉が少し残っているものの、ブナをはじめ、ほとんどの落葉樹の葉が落ち、林内の見通しが良くなりました。昆虫やキノコの観察シーズンが終わり、鳥の観察に適した時期になりました。



チョウ目 1種（チョウ類0種）

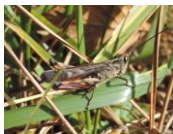
チョウ類はまったく見ませんでした。神社の小屋の窓枠でスズメガ科のホシホウジャクが死んでいました。その他、シャクガ科の一種が屋間から飛翔していましたが、採集できる場所ではありませんでした。



ホシホウジャク

バッタ目 1種

ヒロバナヒナバッタが3個体、鳴いているのを観察しただけでした。2009年から12月にも調査していますが、12月にこの種の鳴き声を聞いたのは初めてです。



ヒロバナヒナバッタ

コウチュウ目 1種

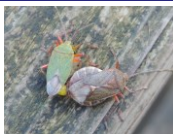
ツキヨタケの老菌が残っているブナの樹幹で、アリガタハネカクシの一種を確認しただけでした。



アリガタハネカクシの一種

カメムシ目 1種

ハラクヌギカメムシが木柵の上で交尾していました。クヌギカメムシ類の3種は、オスの腹部先端の突起の形で見分けることができますが、交尾中にはその部分がメスの交尾器の中に入って、外からは見えなことが分かりました。



ハラクヌギカメムシ

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2013年12月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年4月）

2014年4月8日 天候：晴れ 調査者1名

フナはまだほとんど芽吹いていません。寄生植物のヤドリギが目立ちます。ウグイスの声が続きます。ハードウォーカーたちのお目当てはイスカだったようです。マツの実を食べる様子を撮影しましたが、逆光でダメでした。



チョウ目（チョウ類2種）

春先はいつも決まってヒオドシチョウが見られます。今年の個体は、意外に翅がきれいでした。オス成虫2匹が縄張り争いをしていました。そのうちの1匹は自分の顔に当たりに来ました。もう1種確認できたテングチョウも成虫で冬を越す種です。



ヒオドシチョウ

カメムシ目

写真は山頂の調査では馴染みのミヤマアワフキです。網に入ったものを落葉に止めて撮影しました。名前の通り、山にいるアワフキムシです。その他、ケブカカスミカメとミツボシツチカメムシを確認しました。いずれも成虫で越冬する種です。



ミヤマアワフキ

コウチュウ目

種名の分からないキノコの種類を調べようと持ち帰ると、キノコハネカクシの一種が出てきました。ハスオビキノコハネカクシかもしれないですが、同定に自信がありません。キノコの方はというと、何かさっぱり分かりませんでした。その他、ツブノミハムシを確認しました。



キノコハネカクシの一種

ハチ目

ウメノキゴケ（地衣類）上にいたケアリの仲間は、持ち帰って調べると普通種のトビイロケアリだと分かりました。触角が長く見え、ヒゲナガケアリかと思ったのですが、少し残念です。その他、クロヤマアリを確認しました。両種とも平地にもいる普通種です。



トビイロケアリ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年5月）

2014年5月7日 天候：晴れ 調査者1名

フナをはじめ、木々の新緑が美しい季節になりました。花は少ないですが、神社の石段下にチコユリの花が咲いていました（右の写真）。イヌシデの芽に、イヌシデメコブフシという虫コブができていました。



チョウ目（チョウ類2種）

コツバメ（シジミチョウ科）を見たのは久しぶりです。幼虫の食草はアセビです。ピントの合っていない画像を2枚撮影しただけで、飛んで行ってしまいました。その他、ツマキチョウを確認しました。幼虫で種名が分かったガはウスタビガだけで、ウハメガシの葉の上にはいました。



コツバメ

カメムシ目

ハルゼミが1匹だけ鳴いていました。山頂付近ではお馴染みのセアカツノカメムシとケブカカスミカメは、成虫で冬を越します。その他、プチシウンカ、オビヒメヨコバイ、イタドリマダラキシラミなどを確認しました。オオカメムシやチャバネアオカメムシは下界にもいる種です。



イタドリマダラキシラミ

コウチュウ目

フタイロセマルトビハムシやキバネホソコメツキは山頂でお馴染みの種です。シロオビナカボソタムシは普通種だそうですが、初めて見ました。写真のオトシブミは、オトシブミ科の中ではかなり大きく、体長は9mmあります。その他、下界との共通種を数種確認しました。



オトシブミ

ハチ目

クロオオアリもムネアオオアリも活動していました。7種確認したアリの中で、体長1.5mmのサクラアリは、あまり見かけないものです。キボシアシナガバチの女王は巣を作り始めていましたが、写真のシダクロスズメバチの女王は、越冬に失敗したのが弱り切っていました。



シダクロスズメバチ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年6月）

2014年6月10日 天候：晴れ・くもり 調査者1名

樹々の緑が濃くなってきました。そんな中、白いウツギの花が目立ちます。花の蜜を求めて、チョウ、ハナバチ、ハナアブが集まっています。人間からは美しく見えるだけの花も、虫たちにはどのように見えているのでしょうか。



チョウ目（チョウ類8種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、クロヒカゲ、ミスジチョウ、ルリタテハ、テングチョウ、アサギマダラ、アカシジミの8種を確認しました。ウツギの花には、ヒゲナガガの仲間が3種（ウスベニ、ホソフタオビ、ホソオビ）来ていました。



ウスベニヒゲナガ

カメムシ目

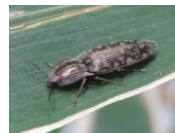
ハルゼミが数個体、鳴いていました。クワキヨコバイ属の一種が林道の地面で交尾をしていました。ハリカメムシ、ミヤマアワフキ、オオヘリカメムシは山頂でよく見る種です。クロヒラタヨコバイやヤニサシガメは、山頂だけではなく平地でもよく見る種です。



クワキヨコバイ属の一種

コウチュウ目

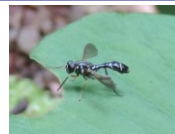
シモフリコメツキやコガタクシコメツキは、平地でも見る種です。その他、種類が分からないコメツキムシが数種類いました。山頂でお馴染みなのは、クロホシテントウゴミムシダマシやズグロキハムシです。アカハネムシの仲間がいましたが、同定に手間取りそうです。



シモフリコメツキ

ハエ目

ウツギの花などにハナアブが多数来ていました。ナミハナアブとアシブトハナアブはよく見かける種で、ムツボシハチモドキハナアブとヒメシロスジベッコウハナアブはそれほど普通ではありません。あとは、ヒサマツムシヒキとマガリケムシヒキを確認しました。



ムツボシハチモドキハナアブ

付図1（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年4月）

付図2（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年5月）

付図3（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年6月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年7月）

2014年7月1日 天候：晴れ 調査者1名

先月から大量に発生しているテングチョウは、やや少なくなつたものの200個体以上は見ました。その群れの中にミドリヒョウモン（右の写真）も混じていました。ウツギの花の時期はほとんど終わりました。



チョウ目（チョウ類9種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、クロヒカゲ、ミスジチョウ、コムスジ、アカタテハ、ミドリヒョウモン、テングチョウ、ダイミョウセセリの9種を確認しました。ガ類では、ナミスジヒメハマキが、これまで自然遊学館に標本がなかったものです。



ナミスジヒメハマキ

カメムシ目

ハルゼミが2個体だけ鳴いていました。テングオオヨコバイとテングアワフキは、これまで一番良い写真が撮れました。オオトガリキジラミの仲間はこれまで自然遊学館に標本がありませんでした。採集した幼虫は、昆虫とは思えないほど、とても平らな形をしていました。



テングオオヨコバイ

コウチュウ目

甲虫の仲間が一番多く確認できました。その中で、トビサルハムシは自然遊学館に標本がなかった種です。馴染みのある種がほとんどでしたが、その他では、ウスイロトラカミキリやホソヒゲナガカマワリなどが、それほど採集例がなかったものでした。



ウスイロトラカミキリ

バッタ目

ヒロハネヒナバッタとナキイナゴが鳴いていました。バッタの仲間なので、翅に後翅をこすり付けて鳴きます。写真のササキリモドキの仲間は、採集場所から考えて、ヒトコブササキリモドキの幼虫だと思います。同所にいたカマドウマ科の幼虫も、おそらくハヤシマダだと思います。



ササキリモドキ科の一種

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年8月）

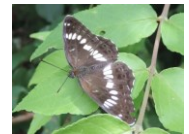
2014年8月5日 天候：晴れ 調査者1名

山頂は24℃前後で暑さを感じません。まだハルゼミが1匹だけ鳴いていました。ニイニゼミとアブラゼミの鳴き声も聞こえます。鳥も少なく、花が咲いているのは、リョウブ、キツネフリ、ゲンノショウコなどわずかです。



チョウ目（チョウ類8種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、コムスジ、アサマイチモンジ、ミドリヒョウモン、ツマグロヒョウモン、ベニシジミ、ホソバセセリの8種を確認しました。ガ類では、アカイラガとヨツボシホリバの幼虫などを確認しました。



アサマイチモンジ

バッタ目

ヒトコブササキリモドキの雌雄が近づいているところを撮影できました。大阪府レッドリストでは準絶滅危惧に指定されていますが、山頂付近では健在です。その他、ヤブキリ、ヒメクササキ幼虫、アシグロツコムシ幼虫、ツマグロバッタ、ヤマトフキバッタなどを確認しました。



ヒトコブササキリモドキ

コウチュウ目

セコブナガカマワリ、イタヤハムシ、シリナガカミキリモドキがこれまで自然遊学館に標本がなかった種です。いずれも生態写真を撮影することができました。その他、クロナガカマワリとアカハナカミキリも標本が少なかつたので採集しました。



セコブナガカマワリ

ハエ目

ナミハナアブ、キイロナミホシヒラタアブ、クロヒラタアブ属の一種などの常連のハナアブのほか、シロスジナガハナアブを確認しました。これまで自然遊学館に標本がなかった種ですが、撮影後に逃げられてしまいました。大型の美麗種で、飛び方はアシナガバチに似ています。



シロスジナガハナアブ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年9月）

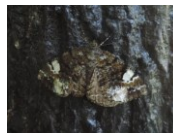
2014年9月9日 天候：晴れ 調査者1名

日射しは暑いものの、ブナ林内を吹く風は涼しい感じがします。写真はジムグリの死体です。死因は分かりません。ミヤマキンバエが交尾・産卵しに来ていて、クロクサアリの群れも集まっていました。



チョウ目（チョウ類7種）

チョウ類は、スジグロシロチョウ、キタキチョウ、クロヒカゲ、ヒカゲチョウ、ルリタテハ、サカハチチョウ、テングチョウの7種を確認しました。駐車場から山頂に登る階段の擬木（手すりの支柱）に、自然遊学館に標本がなかったヒロオビエダシャクが止まっていました。



ヒロオビエダシャク

カメムシ目

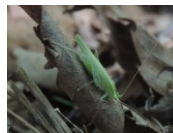
エソゼミが2個体、鳴いていました。これが今年の聞き納めでしょう。ツクツクボウシとチツチゼミは来月も鳴き声を聞けると思います。セアカツノカメムシやエサキモンキツノカメムシ、ヒメクモヘリカメムシといった常連に混じって、オサヨコバイだけがあまり見かけない種でした。



ムラサキナガカメムシ

バッタ目

和歌山県側から続く草原では、セグロバッタ、クルマバッタ、ヒロハネヒナバッタがいたのに対して、ブナ林内では、ヒメツコムシやマダラカマドウマを確認しました。草原とブナ林の境の林縁では、クサヒバリやアシグロツコムシが鳴いていました。



ヒメツコムシ

ハエ目

ハナアブ類の数が多く、アシブトハナアブ、オオハナアブ、ナミハナアブといった普通種に混じって、オオヒゲナガハナアブという自然遊学館に標本がない種が採集できました。ハナアブの仲間なのに、羽ばたく音が大きく、ウシアブのように、まわりついできました。



オオヒゲナガハナアブ

付図4（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年7月）

付図5（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年8月）

付図6（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年9月）

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年10月）

2014年10月9日 天候：くもり 調査者1名
 まだ紅葉には早いようでした。林内ではテिशョウソウやイズミカンアオイ、ミカエリソウの花が咲いていました。ミヤマシキミの赤い実も目立ちます。右の写真はブナの立枯れ木に生えたツキヨタケの幼菌です。



チョウ目（チョウ類4種）
 チョウ類は、キタキチョウ、キタテハ、ヤマトシジミ、ウラナミシジミの4種を確認しました。ガ類では、クロシタアオイラガ、アサケンモン、ヒメシロモンドクガの幼虫を確認しました。あと、もう1種、ウリハダカエデの葉を集団で摂食していた幼虫の種類が分かりませんでした。



クロシタアオイラガ幼虫

カメムシ目
 セミの鳴き声はしませんでした。トホシカメムシ、エソアオカメムシ、ナシカメムシ、トゲカメムシ、セアカツノカメムシなど山地性のカメムシを確認しました。アキグミの木はクサギカメムシに好かれるようで、たくさん来ていました。



エソアオカメムシ

バッタ目
 樹上からはクサヒバリ、林縁ではカンタンやヒロハネヒナバッタの鳴き声が聞こえます。草上で目立つのは、ヤマトフキバッタとアシグロツユムシです。林内で久々にチビクチクワのメス成虫を確認しました。その他、ヒメクサキリやヒメツユムシなどを確認しました。



チビクチクワ

コウチュウ目
 種数はかなり減りました。ツキヨタケの幼菌にはさっそくオオキバハネカクシが来ていました。フタイロセマルトビハムシやコアリガタハネカクシを確認しました。コアリガタハネカクシの同定は注が付きませす。写真のヒゲブトクチフトゾウムシは、図鑑によると、やや珍しいそうです。



ヒゲブトクチフトゾウムシ

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年11月）

2014年11月6日 天候：晴れ 調査者1名
 ブナの紅葉がきれいですが、もう葉がちらほら落ちてきました。虫の数は先月よりかなり減りました。虫の季節は終わりに近づき、紅葉の時期は短く、もうすぐ冬鳥たちを見る時期になります。



チョウ目（チョウ類2種）
 チョウ類は、キタキチョウとキタテハの2種を確認しました。いずれも成虫で冬を越すチョウです。ガ類では、アサケンモン、テングイラガの幼虫を確認しました。テングイラガの幼虫は毒棘が短く、最初見た時はイラガの仲間だとは思いませんでした。



テングイラガ幼虫

カメムシ目
 虫の季節はほぼ終わりと書きましたが、成虫で冬を越す種が多いカメムシの仲間には別です。ツノカメムシの仲間、ヒメツノカメムシ、セアカツノカメムシ、ヒメハサミツノカメムシの3種を確認しました。その他、トホシカメムシ、ツマジロカメムシなどの山地性の種も確認しました。



ヒメツノカメムシ

バッタ目
 ヒロハネヒナバッタが鳴いていました。まだ繁殖シーズンということでしょう。これは標高の高い場所にすむバッタです。マダラスズも鳴いていました。こちらは平地にもいる小さなコオロギです。ヤマトフキバッタと合わせて、3種しか確認できませんでした。



ヒロハネヒナバッタ

ハチ目
 トビイロケアリ、ヒゲナガケアリ、アメイロアリ、ムネアカオオアリ、シワクシケアリ、クロナガアリ、ヒメオオアリの7種のアリを確認しました。クロナガアリはあまり見かけない種です。その他、産卵管が長いマルズヒメバチの一種を採集しました。



マルズヒメバチの一種

「和泉葛城山」昆虫調査速報（2014年12月）

2014年12月3日 天候：くもり 調査者1名
 次の日に雪が降りそうだったので、予定を変更して行くこと、すでに2cm程度の積雪がありました。屋前の山頂の気温はマイナス2℃です。今シーズン最後の調査では、虫はほとんど確認できませんでした。



チョウ目（チョウ類0種）
 チョウ類はまったく確認できませんでした。ガ類では、平地でもこの時期にいるナカオビアキナミジャクだけを確認しました。4月から毎月1回調査してきて、今シーズンは25種のチョウ類を確認しました。ここ4年は25~27種で安定しています。



ナカオビアキナミジャク

カメムシ目
 ヘラクヌギカメムシとクサギカメムシが樹の幹でじっとしていました。耐寒性が強いといっても、無防備な場所だと命が危ないかもしれませぬ。種名の分からないアブラムシは樹の幹で死んでいました。確認できたのは、この3種だけに終わりました。



ヘラクヌギカメムシ

キノコ類
 雪が積もってしまったら、地面や落葉から生えるキノコは分かりませぬ。サルノコシカケの仲間のチャカイガラタケの幼菌だけを確認しました。



チャカイガラタケ



1目盛=1mm

コケ類
 地衣類のウメノキゴケはたくさん生えていますが、科までしか分かりませぬ。写真はコケ類のヤステゴケ属の一種です。大阪自然史センターの道盛正樹さんに教えてもらいました。いったん見つけると、けっこうたくさん生えていることが分かりました。



ヤステゴケの一種

付図7（左上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年10月）

付図8（右上）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年11月）

付図9（左下）. 和泉葛城山昆虫調査速報（2014年12月）